

洗剤等の出荷実績概況

2025年（令和7年）1月～12月

（出荷単位：t・％：前年同期比）

2025年度（1-12月）日本クリーニング用洗剤同業会（以下当同業会という。）に加盟する13社の出荷実績は32,428トン・前年比で112t減の99.6%となりました。

上期（1-6月）は15,395トンの出荷で前年比80t増の100.5%、下期（7-12月）は17,033tの出荷で前年比192t減の98.9%でありました。

当同業会の出荷実績は、2020年からの新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受け、ホームクリーニング分野・テキスタイルリネン分野ともに市場が低迷し、2024年まで減少が継続して参りましたが、2025年も僅かに、前年の出荷量を上回るには至りませんでした。

項目／期・前年比	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比
ドライクリーニング用洗剤（パーク系）	46	128.7%	38	123.1%	84	126.1%
ドライクリーニング用洗剤（フツ系）	6	81.6%	5	88.5%	11	84.4%
ドライクリーニング用洗剤（石油系）	334	97.9%	289	95.4%	623	96.7%
ドライ合計	386	97.9%	331	97.9%	717	99.2%
ランドリー用石けん	69	83.1%	75	96.5%	144	89.6%
ランドリー用合成洗剤（粉末）	5,244	94.6%	5,672	93.1%	10,916	93.8%
ランドリー用合成洗剤（液体）	6,247	109.0%	7,158	106.2%	13,406	107.5%
（液体うち濃縮タイプ）	1,587	152.7%	1,891	119.8%	3,477	132.8%
ランドリー用合成洗剤 合計	11,491	101.9%	12,831	100.0%	24,321	100.9%
ランドリー用ソフター 合計	2,759	98.1%	3,066	97.8%	5,825	98.0%
（うち濃縮タイプ）	499	115.1%	595	100.7%	1,094	106.8%
ランドリー用粉末漂白剤	319	90.9%	331	88.4%	649	89.6%
再販用合成洗剤 合計	196	94.3%	231	92.9%	427	93.6%
（うちコンパクト）	69	95.1%	106	78.3%	175	84.2%
合成糊剤	176	86.0%	169	76.6%	345	81.1%
期総計・前年比	15,395	100.5%	17,033	98.9%	32,428	99.6%

当同業会の顧客は、①ホームクリーニング②テキスタイルリネンサプライ（リネンサプライ・病院寝具・ダストコントロール・ダイアパー4団体）③おしぼり業者④施設ランドリー（コインランドリー含む）であります。以下、洗剤メーカーの立場から顧客概況、及び項目別の出荷概況を報告いたします。

1. ホームクリーニング市場

2025年度1-12月度の総務省統計局『家計調査報告』によると、全国全世帯（二人以上の世帯）のクリーニング代支出額は、4,784円で前年比215円増の104.7%となりました。2022年、23年と2年連続増加した後、2024年は減少に転じましたが、2025年は、再び増加となりました。しかし、この増加要因は、洗濯点数よりも、価格改定の影響が大きいものと推察します。ホームクリーニング市場はこれまで、クール・ビズやビジネスカジュアルの定着化、更にはコロナ禍におけるリモートワークの普及等の影響を受け、コロナ禍以前である2019年の5,937円と比較しましても、80.6%と未だ厳しい状況にあります。今後は、インターネットを活用した集配サービスや24時間無人受付によるお客様の利便性向上に加え、普段着洗濯への展開など、新たな市場創出に繋がる提案が必要であると推察します。当同業会としましても、ホームクリーニング市場のビジネスモデル変化に即した提案を積極的に行ってまいります。

2. テキスタイルリネンサプライ市場

－1) ホテル分野

ホテルリネン分野は、新型コロナ感染の収束後、宿泊者数が大きく回復しました。観光庁の宿泊旅行統計調査によりますと、全国の延べ宿泊者数は、6億5,348万人（前年比99.2%、19年比109.5%）となり、昨年よりも若干減少したもののコロナ禍前より高い水準を維持しました。内訳としまして、日本人の延べ宿泊者数は、4億7,561万人（前年比96.2%、19年比99.0%）と2年連続前年割れとなりましたが、外国人の延べ宿泊者数は、過去最高の1億7,787万人（前年比108.2%、19年比153.8%）となり、宿泊者数全体をけん引しました。その中でも国籍別では3,000万人を超えて断トツ首位の中国人観光客の影響が大きく、同国との外交状況が今後の市場環境を左右するものと推察します。さらに、ホテル業界にける従業員の人手確保と業務効率化は、継続的な共通課題となっており、例えば、連泊時のシーツ、ホープの交換抑制の動きが広がっております。これにより、リネンサプライ市場にとっては、リネン需要の低下、シーツ等の半乾品と、タオル等の全乾品とのアンバランスによる生産効率低下も危惧されます。当同業会としても、白さや肌触りといった品質向上提案は元より、速乾性やすすぎ性の向上等、リネンの生産性向上に繋がる提案にも力を注ぎ、お客様に幅広く貢献して参る所存です。

－2) 病院リネン関連・ダイアパー分野

病院リネン関連分野は、厚生労働省医療施設調査によると、施設総病床数を最近5年の推移をみてみますと、2020年12月末と2025年12月末とでは、159.6万病床から151.4万病床へと8.2万病床、5.1%減少しました。当分野は、人口減少局面を背景に、医療費削減や在宅医療の推奨といった国策も乗じて、上記病床数減少は、今後も拡大していくことが予想されます。従い、リネンサプライ市場では、病院基準寝具の微減分をカバーしていく施策が必要であり、入院患者の私物洗濯や老健施設向けへの展開が加速するものと推察します。一方、コロナ禍以降、当該分野における医療事業機関等からの衛生に対する要望はさらに強まっており、当同業会としまして、除菌・抗菌剤を含めた最適な洗濯処方提案を行って参ります。

次に、ダイアパー分野ですが、病院・施設職員の人手不足が顕在化しており、貸しオムツから紙オムツへの移行が継続しており、第二の柱である下拭きについても、コスト面から同様の動きが見受けられ、今後も厳しい状況が継続するものと推察致します。

－3) ダストコントロール分野

ダストコントロール分野はテキスタイルリネンサプライ市場の約半分を占める分野ですが、一旦陥った需要減少からの回復に遅れが見られます。リース離れや交換期間の延長、家庭向けモップリース製品に対しては、家庭品流通からの購入への移行等により、価格競争が激化しているものと推察致します。また、マットやモップ素材には、石油原料が使用されていることから、ここ数年の原油高、円安のあおりを強く受けざるを得ません。この状況下、中堅業者では、老朽化した設備更新への投資が難しくなり、事業撤退するケースも散見されます。当同業会としては、汚れを多く含んだリース品の洗浄性確保に加え、素材の耐久性向上を鑑みた洗浄技術を提供することで、本分野に貢献して参りたいと考えます。

3. おしぼり・施設ランドリー（コインランドリー含む）分野

おしぼりの主な使用先である外食産業は、コロナ禍後、産業全体としては着実に回復して参りました。しかしながら、近年の客単価の上昇などで、客数の頭打ち感も少しずつ進んでおり、コロナ禍からの回復が早かった「回転寿司」や「焼き肉」などの業態では、客数が前年を下回り、他の業態でも客数が前年を上回れない企業が出てきている模様です。このような状況下、低コストな紙おしぼりへの切替えは止まらず、おしぼり分野を取り巻く環境は、さらに厳しさを増して行く状況にあるものと推定しております。

次に、施設ランドリー分野です。まずコインランドリーは、これまで安定的に推移して参りましたが、少しずつ競争激化しつつあり、業界としての高付加価値化や他店との差別性確保が課題となっております。また、老健施設等の自家ランドリー（OPL）ですが、コロナ感染症の影響を受けず、有料老人ホームを代表とする施設数は増加しており、安定的な分野であると考えております。但し、施設従業員の人手不足が顕在化しており、大規模施設を中心に、病院向けリネンサプライヤーなどへの外部委託化が進んでいくものと考えております。

4. 2025年度総計・タイプ別出荷状況報告

- 1) ドライ用洗剤

項目/期・前年比	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比
ドライクリーニング用洗剤（パーク系）	46	128.7%	38	123.1%	84	126.1%
ドライクリーニング用洗剤（フツソ系）	6	81.6%	5	88.5%	11	84.4%
ドライクリーニング用洗剤（石油系）	334	97.9%	289	95.4%	623	96.7%
ドライ合計	386	97.9%	331	97.9%	717	99.2%

ドライクリーニング用洗剤合計は前年比で6t減の717t（前年比99.2%）となり、僅かに前年割れとなりました。このことは、先に述べましたクリーニング代支出額が上昇した原因が、クリーニング店での洗濯点数の増加ではなく、クリーニング店の値上げによるものであることを裏付けるものと考えております。また、下期の前年比率の低下は、市場の停滞感を反映したものと推察します。次に対象溶剤別の出荷量です。パーク系は、前年比で17t増の84t（前年比126.1%）と上期、下期を通じて大幅に回復しました。比較的溶剤の値上率が低かったことや特定顧客での稼働率upなどが要因として考えられますが、これまで減少傾向が継続して参りましたし、絶対量自体も小さいため、引き続き状況を観察して参ります。フツソ系は、前年比で2t減の11t（前年比84.4%）となり、減少傾向が継続しております。石油系は、前年比で21t減の623t（前年比96.7%）となりました。ドライクリーニング用洗剤の約90%を占める石油系の動向は、ホームクリーニング市場全体を反映するものと考えており、減少傾向が継続していくものと推察しております。

- 2) ランドリー石鹼

項目/期・前年比	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比
ランドリー用石けん	69	83.1%	75	96.5%	144	89.6%

ランドリー石鹼は前年比、16t減の144t（前年比89.6%）となりました。従来からの、ランドリー用合成洗剤への移行というトレンドは、継続しているものと考えており、当同業会としても製品供給性の確保が課題になって参るものと考えます。

- 3) ランドリー用合成洗剤

項目/期・前年比	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比
ランドリー用合成洗剤（粉末）	5,244	94.6%	5,672	93.1%	10,916	93.8%
ランドリー用合成洗剤（液体）	6,247	109.0%	7,158	106.2%	13,406	107.5%
（液体うち濃縮タイプ）	1,587	152.7%	1,891	119.8%	3,477	132.8%
ランドリー用合成洗剤 合計	11,491	101.9%	12,831	100.0%	24,321	100.9%

ランドリー用合成洗剤は、前年比215t増（前年比100.9%）と前年を上回りました。しかしながら、下期の前年比は、先のドライ洗剤同様、上期よりも低下しました。次にその内訳です。

ランドリー用合成洗剤（粉末）は、715t減の10,916t（前年比93.8%）と出荷減となりました。コロナ禍の影響を受けた2020から、出荷減が継続しております。

これに対し、ランドリー用合成洗剤（液体）は、930t増の13,406t（前年比107.5%）と大幅に増加しました。さらに濃縮タイプにつきましては、860t増の3,477t（前年比132.8%）となり、液体洗剤増加分の殆どを、この濃縮タイプが占めたことがわかります。

これは、リネンサプライヤーにおいて、液体自動供給システム導入による、作業性改善や品質安定化等のメリットが重要視され、粉末洗剤から液体洗剤への移行が進んでいることが要因であり、その中でも経済性に有利な濃縮タイプが選定されているものと推察しております。当同業会としても、この市場ニーズの変化に対応した提案を行うべく取り組んでまいります。

－ 4) ランドリー用ソフター・漂白剤・合成糊剤

項目／期・前年比	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比
ランドリー用ソフター 合計	2,759	98.1%	3,066	97.8%	5,825	98.0%
(うち濃縮タイプ)	499	115.1%	595	100.7%	1,094	106.8%
ランドリー用粉末漂白剤	319	90.9%	331	88.4%	649	89.6%
合成糊剤	176	86.0%	169	76.6%	345	81.1%

ランドリー用ソフター、漂白剤、合成糊剤ですが、こちらも、全ての項目で下期の前年比が上期を下回りました。

- ① ランドリー用ソフターは、122 t 減の 5,825 t (前年比 98.0%) となりましたが、その中で、濃縮タイプは、前年比 69 t 増の 1,094 t (前年比 106.8%) の出荷量となりました。これは、原価高騰の中でコスト抑制対策として、濃縮タイプへの切り替えが進んだものと考えておりますが、今後も動向を注視して参ります。
- ② ランドリー用粉末漂白剤は、74 t 減の 649 t (前年比 89.6%) と減少しました。安価な輸入品へのシフトが継続していること、及び粉末漂白剤の主な出荷先であるホームクリーニング市場でのコストダウン施策の影響を受けたもの推察しております。
- ③ 合成糊剤は、80 t 減の 345 t (前年比 81.1%) と大幅な減少が継続しております。シーツやカッターシャツ・ワイシャツ等に対するソフト嗜好の浸透、及びコストダウン施策の影響もあり、出荷量は今後も減少していくものと予測しております。

－ 5) 再販用合成洗剤

項目／期・前年比	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比
再販用合成洗剤 合計	196	94.3%	231	92.9%	427	93.6%
(うちコンパクト)	69	95.1%	106	78.3%	175	84.2%

再販用合成洗剤は、29 t 減の 427 t (前年比 93.6%) でありました。また、濃縮タイプも前年比 33 t 減の 175 t (前年比 84.2%) と減少し、特に下期のコンパクト品の減少は大きなものとなりました。1994 年頃はプロが推奨する洗剤として、店頭・訪問販売により安定的な出荷でありましたが、年々市販品との競争が激化し、衰退項目となっております。原価高騰の影響により再販用合成洗剤の販売を取りやめるメーカーもあり、このトレンドは継続するものと推察します。

5. まとめ

当同業会の 2025 年度の出荷総計は 32,428 トン・前年比で 112 t 減の 99.6% という結果でありました。現在、国内では 2020 年から続いた新型コロナウイルス感染症の影響から脱し、訪日外国人旅行者が 4,268 万人 (出典：日本政府観光局) と過去最高を更新しました。株価も上昇し、国内経済が回復する一方で、大阪万博の終了、中国人旅行者の激減など、下期からは、ホテルや飲食店の稼働状況に減速感も出ています。クリーニング市場における分野別では、宿泊者数の増大で活況な『ホテル関連』、長期低迷傾向が継続する『ホームクリーニング』、一旦冷え込んだ底から回復の遅い『おしぼり』や『ダスコン』など、明暗の分かれる状況は未だ継続しております。また、観光客を受け入れる宿泊施設やリネンを提供するサプライヤーでの人手不足問題も顕在化しております。今後も、地政学的問題や為替安など、世界経済が著しく変動する中、当クリーニング業界もその影響を免れることはできません。

この様な厳しい状況の下ではありますが、当同業会 13 社は、将来に向けて洗浄技術を更に発展させ、消費者動向・業界変化に敏速に対応し業界発展に貢献して参ります。

以上